

「舞たうん」での 積み重ねが財産に



柳原 あや子
イラストレーター

舞たうん99号までの表紙を描き終え、しみじみと深い思いを感じています。

私と本誌の係わりは、舞たうん22号の「リレートーク」のバトンパスを受けた事が始まりです。研究員の豊田渉さん、石川元英さんの熱心さについて私が「文章は困るがイラスト入りで」という返事を出したことで、本誌初のイラスト入りトークが登場。ところが本誌を受け取り「ビックリ」。その中の一枚がなんと表紙絵に変身していました。表紙としてはとても心許なく、「次回も表紙を」と頼まれた時、それを塗り替えたくってお引き受けしました。

ちょうどこの頃、私が参加する「えひめ路上観察友の会」の活動も活発な時でしたから、本誌「歩キ目デス&足ラテス」の執筆者である岡崎直司さん達を中心に、グループで月1回のペースで路上にある物を観察探求していました。目をカメラに向けたり、スケッチをした事が表紙づくりの

参考になります。

歩いて見ることは季節感もあり、路地裏は地域の人とのコミュニケーション、大人が子どもの目になり、不思議な世界を発見でき、私の知るまちが広がりました。楽しく面白い時でした。しかし、バブルがはじける頃から異変を感じました。まちの文化遺産が次々と消え、予期せぬ光景に驚くばかりでしたが、気がつけば私自身古い人間になっていました。

思い出に残るのは舞たうん64号の表紙絵です。老いた母を連れた九州の旅でのこと、宿の広大な敷地の雑木林の景色に



大分県久住高原（舞たうん64号）

見とれた母は、足を踏み外し怪我をしました。残念なことに一日で旅は終わり、母は救急車に乗せられ、私は阿蘇の山並みを救急車を追っかけ病院巡りが始まり、大変な旅となりました。母との旅もだんだん無理となり、今、心に残る作品の一つです。

舞たうん28号は今治市大三島の鯉幟こいのぼりを表紙にしました。当時、地元

出身の研究員さんが絵の家紋を見て、鯉幟の持ち主を捜し出し、ご家族の要望もあり絵を差し上げ、私も一緒に子どもの成長を願いました。

白黒のペン画が46冊になります。イメージが限られ、いつまでも表現できるか不安になっていた時に、表紙をカラー版にとの話を受け正直ホッとしました。

栄えあるカラー第1号は舞たうん68号で、棚田に泳ぐ鯉幟の姿が気に入って、元氣よく登場です。

さらに、舞たうん82号の時に編者である



鯉幟（舞たうん28号）

研究員の清水和繁さんから特集記事の内容にあわせた表紙を描いて欲しいとの依頼があり、これ以降、えひめ地域政策研究センターの研究員さんと表紙づくりや描く場所を探したりと協力していただくことになり、編集スタッフの一員として気が合いが入りました。

取材は都合のよい時ばかりではありません。舞たうん88号の取材は2月で、内子町小田地区に入るまでは車窓の雪景色を楽しんでいました。元造り酒屋のスケッチを始めた頃に天候が急変し吹雪となり、スケッチブックも私も雪の中、さらに道路が凍結し始め、帰路を心配しながらの取材とな



小田の造り酒屋(舞たうん88号)



明浜のみかん山(舞たうん82号)

りました。この時に同行していただいたのは研究員の兵頭利樹さんでした。もう大変だったですね。

インパクトが強かったのは、舞たうん94号の表紙となった伊予市双海町の翠小学校の訪問でした。深い山間に赤い屋根が目飛び込み、校舎の中央に時計が収まり、まるで宮崎駿作品のシーンを見るような。路上観察的には二宮金次郎銅像にお目にかかるどころ、いきなり女性校長との顔合わせ。総数30数名、優しく素直な生徒たち。絵も拝見、実にのびのびとおおらかな表現。これが環境から生まれるなら羨ましい。全体が見通せ、先生、生徒、そして地域の環境が非常に良く、心安らぐ学校でした。

私は、普段は絵画教室と幼稚園に出向い



双海町・翠小学校(舞たうん94号)

て園児に絵画指導をしています。無理なく、そつと後押しをして、良さを出せるように心掛けています。絵の不得意な園児と

の信頼感が生まれ、積極的に明るくなります。声掛けをしてあげることが、どれだけ大切なことか実感しています。

園児達と一緒に、西予市城川町の「全国かまぼこ板絵」展覧会に出品するのも楽しみのひとつです。

最近、絵はがきを制作することになりました。「松山たぬき民話・十話」です。松山市に住むひょうきんなたぬき話です。文は「伊予の昔話」や民話の紙芝居などを作話している盛重ふみ子さん。ほのぼのと

してください。

これまで自由に表紙を描かせていただき、い

つしか積み重ねが

私の財産となりました。

人生、光を

受ける時はほん

の一瞬。お世

話になった研

究員の皆様や

舞たうんの表

紙絵で出逢っ

たすべてに感

謝して、その

心、大切にし

ています。



「松山たぬき民話・十話」の絵はがき